

外資がベトナムでビジネスする上で「企業情報」はネックの一つ

- 情報統制が厳しく、外国語の情報はさらに限られる
- 企業や個人の信用情報やコネクションの確認が不可欠
- コロナ禍で出張ベースでの情報収集が難しくなった



スカウトアジアでは最新の登記情報から企業と個人の関係を調べられる

リサーチ例:取引検討中のA社について、経営陣とその親族の関わりを調べたい

A社の株主や役員、サプライヤーなどのつながりをマップ化

A社の中核を占める会長と親族の顔ぶれが見える

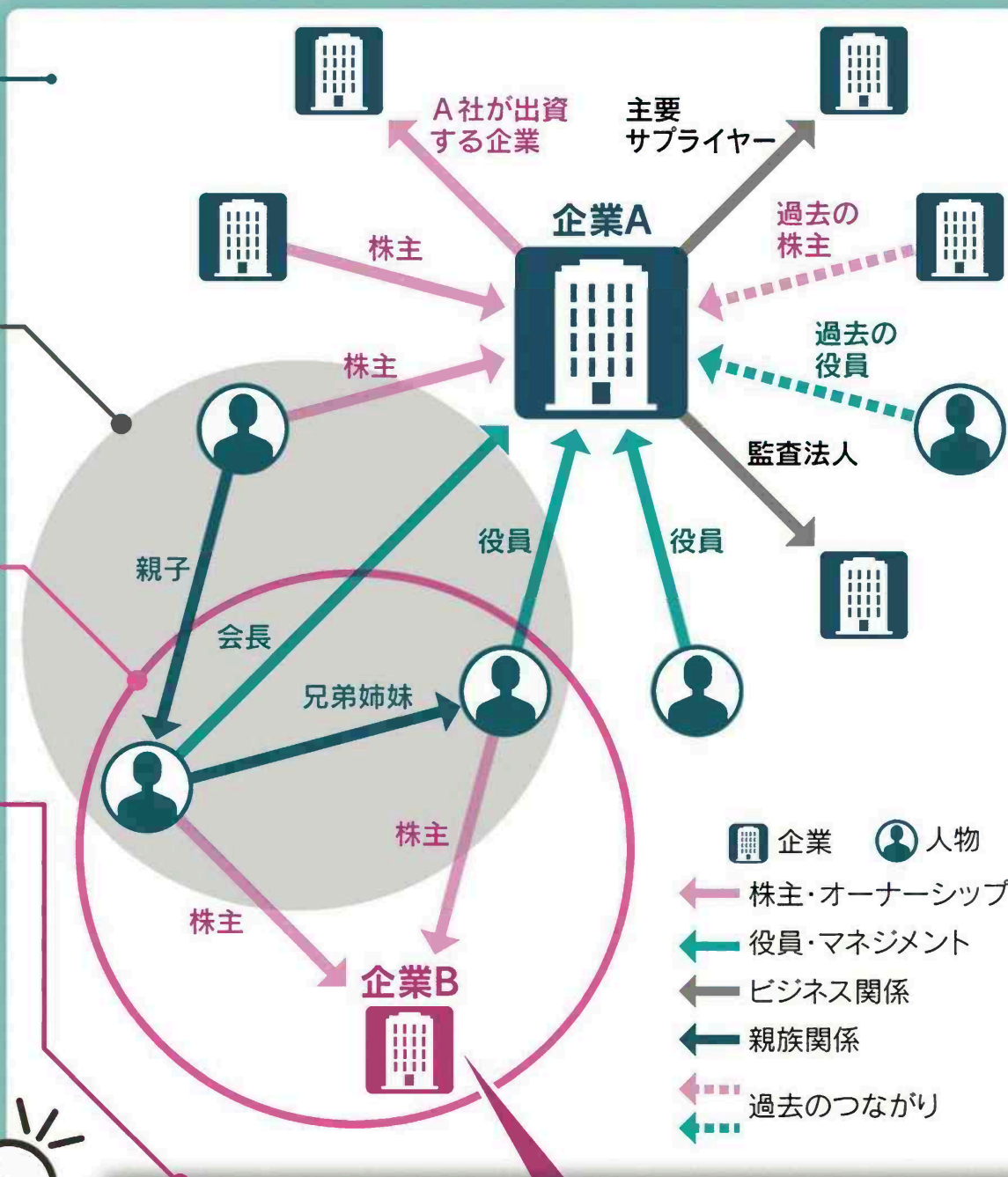
会長一族が関わるB社の存在が分かる

B社について概要レポートを出力

資料として業務に活用

• さらに調査したい企業や人物を絞り込めた

• 現地の情報と照合すればよりクリアに実態をつかめる



ベトナム企業取引先まで網羅

日本経済新聞社と英フィナンシャル・タイムズ（FT）が共同開発した法人向け英文ビジネス情報サービス「scoutAsia（スカウトアジア）」は、新型コロナウイルス収束後を見据えたアジア事業の再構築に役立つ各種サービスを拡充します。サプライチェーン（供給網）で重要なベトナム企業の収録数を増やすほか、ベトナム、中国など4カ国の登記情報をもとに企業と人物の関係性を図解するコネクションマップ機能も提供。ステークホルダー（利害関係者）情報を含む現地企業のデータが簡単に入手でき、現地調査や出資検討といった「次の一手」の素早い展開が可能になります。

企業数を十数万社に拡充

ベトナムはコロナ禍でも底堅い経済の伸びを維持し、東南アジア諸国連合（ASEAN）トップクラスの有望市場です。米中対立の影響を回避するため、中国から生産拠点などの分散を進める「チャイナ・プラスワン」の流れを受け、大手製造業進出の動きが加速しています。今年1月1日に発効した東アジアの地域的な包括的経済連携（RCEP）によって、さらに経済活動の拡大が見込まれます。

半面、ベトナムは情報統制や手続きの不明瞭さなど外国企業にとってのリスクも多く、特に新しい取引先やパートナー選びはビジネスの成否を決める重要な要素です。

スカウトアジアではベトナム企業の収録社数を昨年末時点の6万社から十数万社に順次拡充させていきます。日経とQUICKが出資する金融情報会社であるFiinGroup（フィングループ）を通じて主に非上場企業のデータを増強。ベトナム企業全体の年間売上高上位15~20%相当をカバーします。主要な取引先・提携先、競合企業を幅広くウオッチすることが可能になります。

また、ベトナムでの事業環境をより手軽に調査・モニタリングするため、現地企業や主要産業のレポート類やニュースのデータベース（DB）も拡充していきます。

株主・家族との関係をマップ化

現地企業をより詳細に調べたいユーザーには、登記情報から企業と人物の様々な関係性を図解するプレミアム機能「コネクションズプラス」が好評です。

株主、役員、主要な取引先、さらに親族同士で株を持ち合っているような関係性もツリーマップで表示。個別の企業・人物についての概要をまとめたレポート出力も可能です。

コネクションズプラスはベトナムのほか、中国、シンガポール、マレーシアの4カ国が対象。現地の法令等に準ずる形で公式に登録されている企業DBを参照

するため、調査漏れや誤情報のリスクを排除できます。アジア事業の成否を分ける「人脈」と「信頼性の高いデータ」へのアクセス手段として同機能を活用してください。

コロナ禍で引き続き海外への自由な行き来が制限される中、データベースが果たす役割も重要性を増しています。日経はスカウトアジアを通じて、ベトナムをはじめとする東南アジア地域で事業の拡大を目指すビジネスパーソンがどこにいても現地情報を即座に入手できるよう支援していきます。

無料トライアル受け付け

アジアに特化した日経の英文の情報サービス「スカウトアジア」を無料でお試しください。

特設サイト<https://go.scout.asia/jp-main/>からお申し込みください。QRコードからもアクセスできます。ご不明な点はscout@nex.nikkei.co.jpまでお問い合わせください。

